

BladeSymphony

HITACHI
Inspire the Next

BladeSymphony

LAN拡張機能設定手順書 (Emulex編)

Windows Server 2008 32-bit/64-bit
Windows Server 2008 R2

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複製することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。
なお、保証と責任については、搭載システム装置に添付される保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

規制・対策などについて

☐ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、不明の場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。なお、本製品に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。

☐ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。
なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、本製品は適合していません。

登録商標・商標について

Microsoft, MS-DOS, Windows, Windows Server, Windows NTは米国Microsoft Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

版權について

このマニュアルの内容はすべて著作権により保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© Hitachi, Ltd. 2012. All rights reserved.

はじめに

このたびは統合プラットフォームBladeSymphonyをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

このマニュアルは、BS500 標準オンボードLAN、Emulex製 10Gb 4ポート LAN拡張カード、10Gb 4ポート コンバージドネットワーク拡張カードのLAN拡張機能「Onecommand NIC Teaming and VLAN Manager」(以下、NIC Teaming Kitと表記します)を使用するために必要な事柄について記載しています。

BS500 のLANデバイスとLANスイッチモジュールの接続についての説明は、OneCommandManagerガイドの"LANデバイスとLANスイッチモジュールの接続について"の項を参照ください。

マニュアルの表記

□ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	本製品の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	本製品を活用するためのアドバイスを示します。

□ サポートOSならびオペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次のOS名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版
(以下Windows Server 2008 64-bit版)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版
(以下Windows Server 2008 64-bit版)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter 日本語版
(以下Windows Server 2008 64-bit版)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
(以下Windows Server 2008 32-bit版)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
(以下Windows Server 2008 32-bit版)
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter 32-bit 日本語版
(以下Windows Server 2008 32-bit版)

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS	表記対象OS
Windows Server 2008 R2	Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2008 R2 Datacenter
Windows Server 2008	Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 Datacenter Windows Server 2008 Standard 32-bit Windows Server 2008 Enterprise 32-bit Windows Server 2008 Datacenter 32-bit
Windows Server 2008 64-bit版	Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 Datacenter
Windows Server 2008 32-bit版	Windows Server 2008 Standard 32-bit Windows Server 2008 Enterprise 32-bit Windows Server 2008 Datacenter 32-bit

目次

重要なお知らせ	2
規制・対策などについて	2
登録商標・商標について	2
著作権について	2
はじめに	3
マニュアルの表記	3
目次	5
拡張機能	6
スマートロードバランシングおよび、フェイルオーバー機能	7
タグVLAN機能	9
制限事項	10
拡張機能設定手順	11
NIC Teaming Kitのインストール	11
フェイルオーバー設定方法	13

1

拡張機能

この章では、本拡張機能について、その種類と設定方法を説明します。以下に、拡張機能の種類について説明します。

フェイルオーバー(2重化LAN) Failover	
特徴	2個のLANデバイスを組合せ、ネットワーク接続に障害が生じた場合、自動的にバックアップLANデバイスに切り換えて処理を移行することで、ネットワークの冗長、耐障害を実現します。
条件	接続HUB：スイッチングHUB サポートプロトコル：IP

タグVLAN(IEEE802.1q タグVLAN)	
特徴	パケット内のタグに指定されたIDにより、VLANグループを識別することで論理的なセグメント分割を実現します。
条件	接続HUB：スイッチングHUB IEEE802.1q タグVLANサポート 設定グループ：1つのLANデバイスにつき最大4グループ(ID:1-4094) サポートプロトコル：IP

スマートロードバランシングおよび、フェイルオーバー機能

スマートロードバランシングおよびフェイルオーバー機能(以下、チームまたはFail0verと表記します)は以下の2つの機能を提供します。

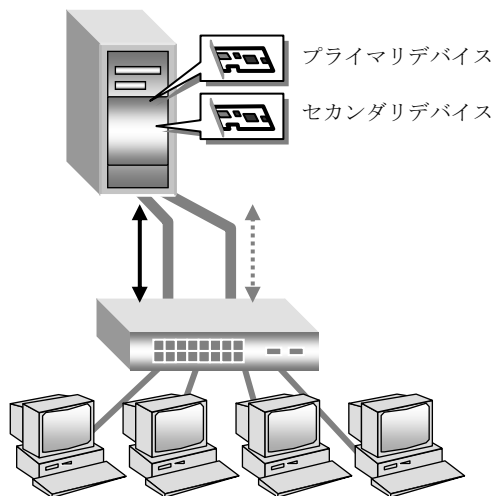
①LANデバイス冗長化機能

②スイッチ冗長化機能

以下、それぞれの機能の概要を説明します。

□ LANデバイス冗長化機能

本機能は、LANデバイスの冗長性を確保するために2つのLANデバイスを使用し、それぞれのLANデバイスを通常接続用(プライマリデバイス)およびバックアップ接続用(セカンダリデバイス)として1つのチームを構成し、協調動作させます。運用中は、インストールされたLANドライバがネットワークの接続状況を常に監視します。この状態で通常接続用のLANデバイスのネットワークケーブルが外れるなどのリンク不可障害が発生した場合、本機能により全トラフィック(MACアドレスおよびIPアドレスを含む)がバックアップ接続用のLANアダプタに引き継がれます。ユーザーはLANデバイスの切替を意識することなくシステム装置を運用できます。



本機能を使用する場合は、2個のLANデバイスは同一スイッチングHUBへ接続してください。

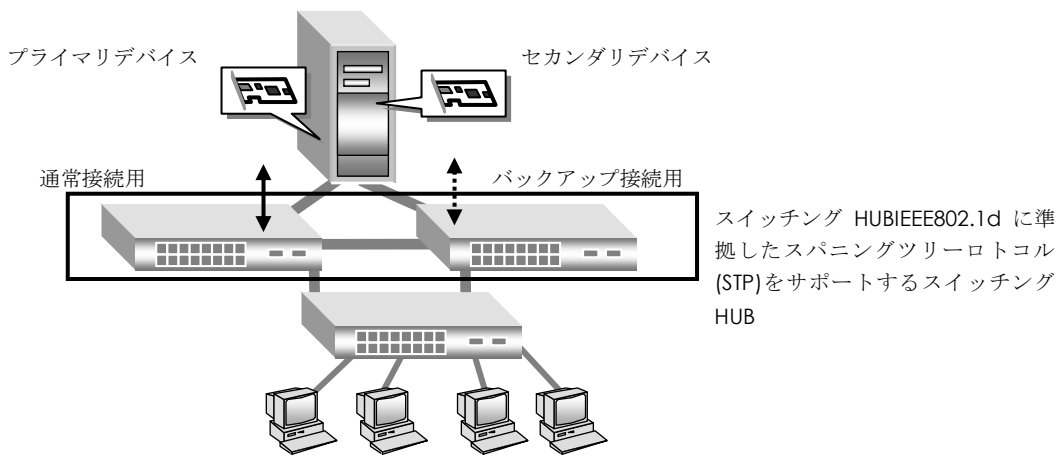


Hyper-Vの仮想ネットワークに割り当てることは出来ません。

□ スイッチ冗長化機能

本機能は、ネットワークにおいて、システム装置と2重化されたHUBとの耐障害性を付加します。LANデバイス(プライマリデバイスおよびセカンダリデバイス)は、スパニングツリー対応HUB(通常接続用およびバックアップ用)と協調動作します。スパニングツリー機能はHUBの2重化機能に対応するHUB機能であり、監視パケットによるHUB間の相互監視およびHUB間の通信経路を制御します。本機能はそのHUB機能と受動的な連携を行い、LANデバイスの切替を制御します。

運用中、プライマリデバイスは通常接続用HUBのリンクを用いて通信し、システム装置のLANドライバがネットワーク接続状況を常に監視します。この状態で通常接続用HUBの電源がオフになるような障害が発生した場合、通常接続用HUBとバックアップ用HUB間のスパニングツリー制御により、通信経路が変更されます。LANドライバは通常接続用HUBの電源オフによるリンクダウンを検知し、プライマリデバイスからセカンダリデバイスへ全トラフィック(MACアドレスおよびIPアドレスを含む)を移します。



制限 プライマリデバイスとスイッチングHUB間でのリンク断を伴わない接続障害が発生した場合、セカンダリデバイスとスイッチングHUB間への切替は起きません。

制限 チームを設定したLANデバイスのスイッチングHUB接続ポートにはSTPを設定しないでください。パケットロスの原因となります。SFTを使用する場合は、2個のLANデバイスは異なるスイッチングHUBへ接続し、スイッチングHUB間接続PortはSTPをオンにしてください。

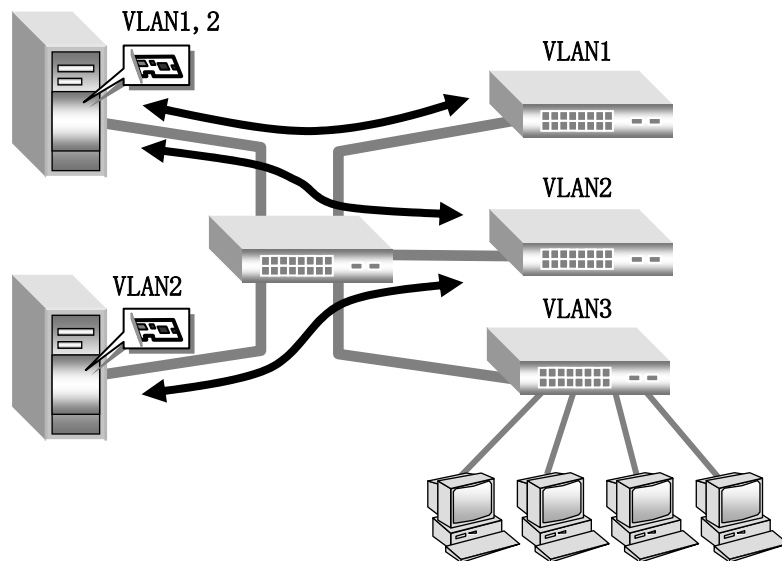
補足 Hyper-Vの仮想ネットワークに割り当てることは出来ません。

タグVLAN機能

ネットワークでは処理能力、信頼性および稼働率の向上とともに、機密性も重要となります。ネットワークの機密性を維持する手法として、論理的なセグメント分割を可能とするタグVLAN(仮想LAN)をサポートしております。

タグVLANでは、物理的に1つのネットワークで結ばれた各グループを、論理的に通信可能なグループに分割することができます。これは、パケットの届く範囲を意図的に制限することであり、グループ内のみの通信を可能とし、グループ間ではブロードキャストパケットを含めた全ての通信を抑制することとなります。

IEEE802.1qタグVLANは、パケット内のタグに指定された番号によりVLANグループを識別する機能です。従来、スイッチングHUBで使用されているこの機能をLANデバイスまで範囲を拡張することで、より機密なネットワークシステムの構築が可能となります。



制限

1つのLANデバイスで設定できるVLANグループの最大値は4個です。



制限

LANデバイスを割り当てたHyper-Vの仮想ネットワークでタグVLANを利用する場合は、必ずNIC Teaming Kitで作成したタグVLANとHyper-V 各仮想マシン 仮想LAN ID両方の設定を行ってください。



補足

タグVLANを作成した場合は関係するネットワーク全てにタグVLANの設定が必要になります。

制限事項

①ネットワークプロトコルについて

ネットワークプロトコルはTCP/IPプロトコルをご使用ください。

②LANデバイス間の処理引継について

プライマリデバイスのリンクが切断された場合、セカンダリデバイスに処理が引き継がれますが、引き継ぎには若干の時間を要します。また、その際は事前にイベントビューアにてネットワーク接続が正常に引き継がれていることを確認してください。

③障害発生時のLANデバイス交換について

チーム内のLANデバイス全てにハードウェア障害が発生した場合には、ネットワーク接続が切断されます。LANデバイスに障害が発生した場合は、早急に故障したLANデバイスを交換してください。LANデバイス交換後は、本手順書に従い拡張機能の再設定を行ってください。

④システム起動時に、LANデバイスでエラーイベントがイベントログに記録されることがあります。LANデバイスがリンクダウンしている可能性があります。

[ネットワーク接続]で、対象のLANデバイスが接続されていることをご確認ください。

⑤ネットワーク負荷分散（NLB）がインストールされた環境では、Failover設定することは出来ません。設定を行った場合に、作成した仮想LANデバイスや、設定解除後のLANデバイスで、正常に通信できなくなることがあります。

⑥クラスタサーバの内部クラスタ通信用LANには、LAN拡張機能は使用しないでください。

⑦チーム/タグVLAN作成時の一時的な通信不可について

チーム/タグVLAN作成時、システム装置のすべてのチーム/タグVLANが一時的に通信できなくなることがあります。すべてのチーム/タグVLANが通信可能であることを確認してから運用してください。

⑧チーム リンク切替時の一時的な通信不可について

リンクの切替には数秒かかるため、使用中のアプリケーションによってはネットワーク接続が一時切断される場合があります。

⑨チームの切替えについて

チームでは通常接続用LANデバイスでのリンク断を伴わない接続障害が発生した場合、バックアップ接続用のLANデバイスへの切替りは起こりません。

⑩チームを構成する最大LANデバイス数は2個です。

⑪1つのLANデバイスで設定できるVLANグループの最大値は4個です。

⑫WOL(Wake On LAN)に関して、ドライバの設定で無効設定にしてもOS起動用のパケット受信にて起動します。

2

拡張機能設定手順

この章では、LAN拡張機能（NIC Teaming Kit）のインストールと設定方法について説明します。
LANドライバが正しくインストールされていることを前提に説明します。

...
補足

搭載するシステム装置により対応OSが異なります。搭載するシステム装置の対応OSを常に確認してください。

...
補足

LAN拡張機能を使用する場合は、「NIC Teaming Kit」をインストールする必要があります

...
補足

NIC Teaming Kitをインストールする場合、Microsoft .Net Framework 3.5 SP1以降をインストールしておく必要があります。
Microsoft .Net Framework 3.5 SP1以降をインストールしてからNIC Teaming Kitをインストールしてください。

NIC Teaming Kitのインストール

NIC Teaming Kitは、以下に示すディレクトリ構成に格納されています。使用OSに対応したセットアッププログラムを実行します。

「System Installer」DVD-ROMの下記ディレクトリにあるセットアッププログラムを実行します。
(DVD-RAMのドライブがDの場合),(*:任意な数字) となります。)

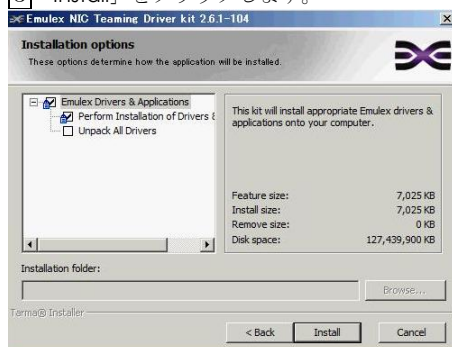
OS	LAN 2 重化ツール格納場所
Windows Server 2008 R2 版	D:¥GC0x1¥Win2008¥Utility¥EmulexOCM¥elxdrv-nic-teaming-2.6.1-109.exe
Windows Server 2008 32-bit版	
Windows Server 2008 64-bit版	

□ NIC Teaming Kitのインストール

- 1 管理者権限を持つユーザ(Administrator等)でログオンします。
- 2 実行ファイルをダブルクリックし、「Next」をクリックします。



- 3 「Install」をクリックします。



- 4 「Finish」をクリックします。



- 5 OS再起動を必ず行ってください。

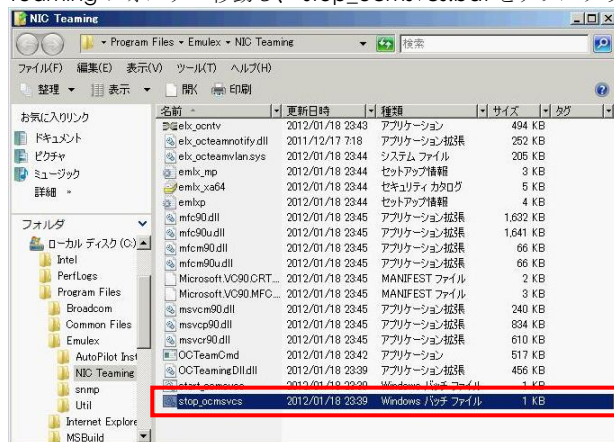
フェイルオーバー設定方法



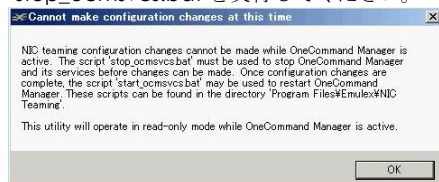
管理者権限を持つユーザ (Administrator等) でログインして行ってください。

□ チーム設定方法

- 1 OneCommand Managerをインストールしている場合、"C:\Program Files\Emulex\NIC Teaming"フォルダへ移動し、"stop_ocmsvcs.bat"をダブルクリックします。

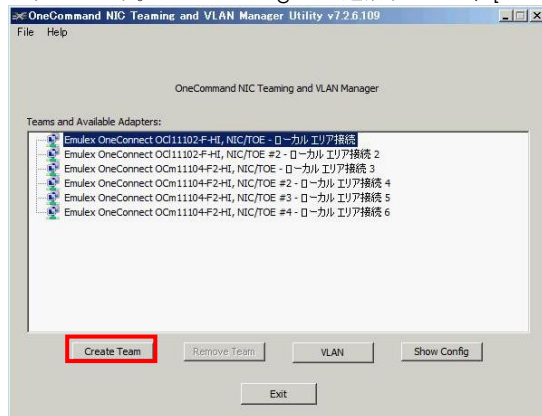


"stop_ocmsvcs.bat"を実行しないでNIC Teaming Kitを起動すると、以下のメッセージが表示され、チーム/VLANの作成削除が出来ません。必ず"stop_ocmsvcs.bat"を実行してください。

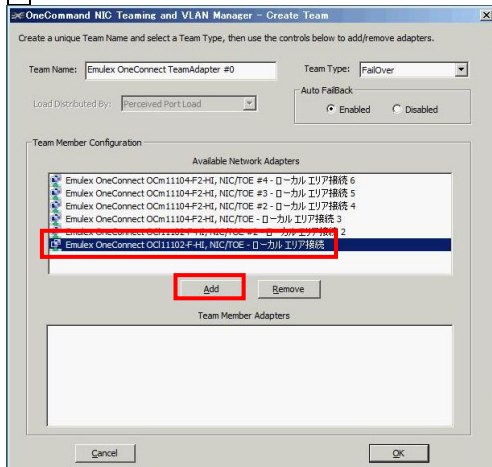


NIC Teaming Kit終了後、OneCommand Managerを起動する場合は、"start_ocmsvcs.bat"を実行してください。

- 2 [スタート]-[プログラム]-[Emulex]-[OneCommand NIC Teaming and VLAN Manager]をクリックします。NIC Teaming Kitが起動するので、[Create Team]をクリックします。



3 プライマリデバイスに設定するLANデバイスを選択し、[Add]をクリックします。



チームの名前(Team Name)は任意に変更できます。
デフォルト設定は「Emulex OneCommand TeamAdapter #x(x:数字)」です。



LANデバイスの切戻しに対応させない場合は[Auto Failback]は"Disabled"をチェックしてください。(デフォルト設定は"Enabled")

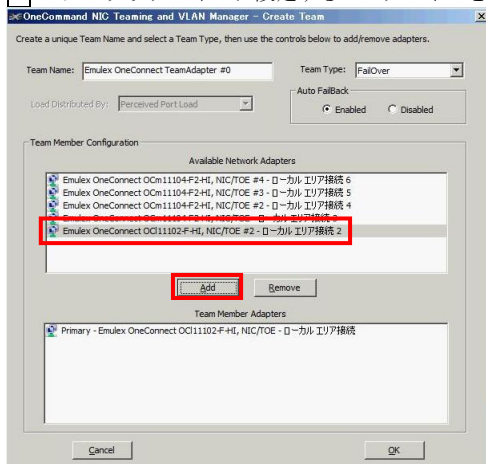


チームの種類(Team Type)は、"Failover"以外は選択しないでください。
"LoadBalancing", "802.3ad static", "LACP"は未サポートとなります。

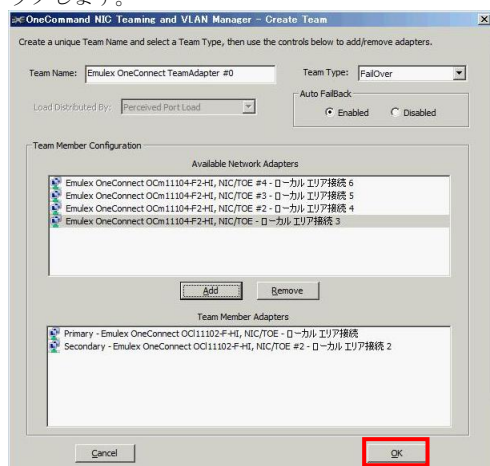


LANデバイスのポート分割を行っている場合、チームを構成するデバイスは同じLPVIDを設定したポートで構成してください。

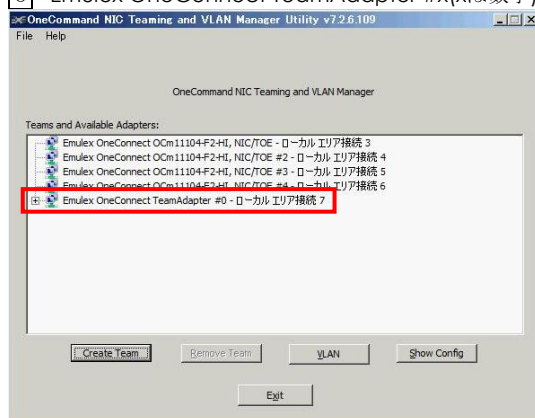
4 セカンダリデバイスに設定するLANデバイスを選択し、[Add]をクリックします。



- 5 プライマリデバイス、セカンダリデバイスが下のペインに追加された事を確認し、[OK]をクリックします。



- 6 "Emulex OneConnect TeamAdapter #x(xは数字)"が作成されることを確認します。

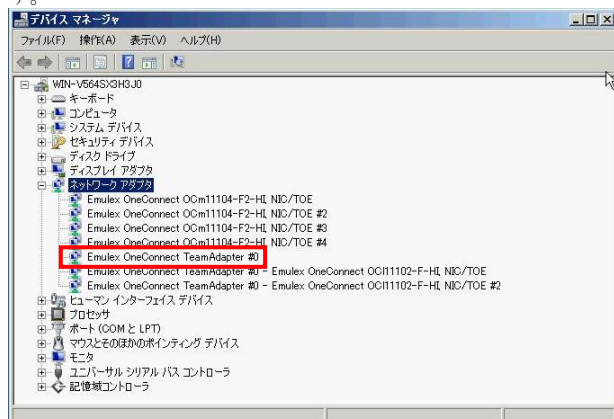


設定完了まで時間が掛かることがあります。



NIC Teaming KitはLANデバイスの冗長化をすることで、通信の信頼性向上を目的としたものですが、使用環境(ネットワーク構成、アプリケーション)によってはリンクの切替/切戻時の通信の回復に十数秒～数分を要する場合があります。

「デバイスマネージャー」上で、下図のように新規にチームが追加されます。

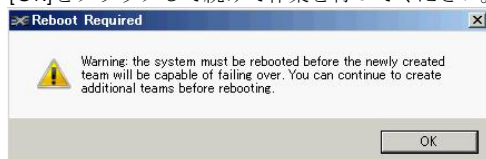


7 他にチームを作成する場合、手順2から6を繰り返してください。

8 OS再起動を必ず行ってください。

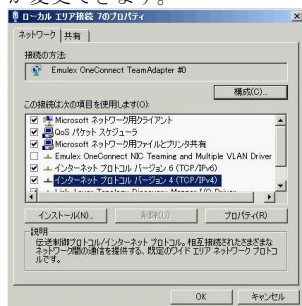


既にチームを作成している場合、以下のメッセージが表示されますが、[OK]をクリックして続けて作業を行ってください。



[ネットワーク接続]画面には、LANデバイス数に合わせた[ローカルエリア接続]とLAN拡張機能で設定したチーム数の[ローカルエリア接続]アイコンが表示されます。

IPアドレスはLAN拡張機能のチーム設定により追加された[ローカルエリア接続]の設定値が有効になります。[ローカルエリア接続]のプロパティで、ネットワークプロトコル(TCP/IP)のプロパティを選択するとIPアドレスが変更できます。



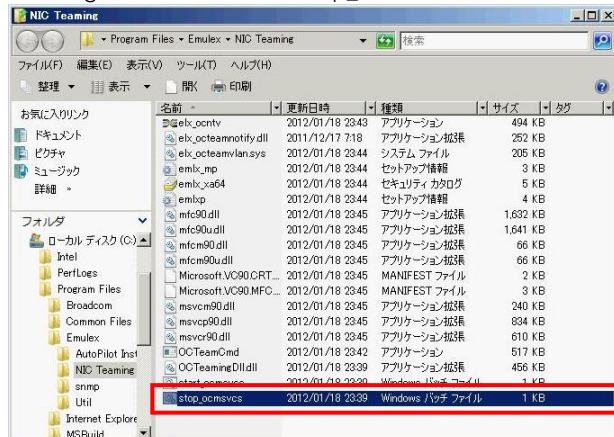
チーム作成時にIPv6アドレスは設定して使用しないでください。
LANデバイスの切り替えが発生した場合、通信が出来なくなります。

9 IPアドレスの設定値を確認します。

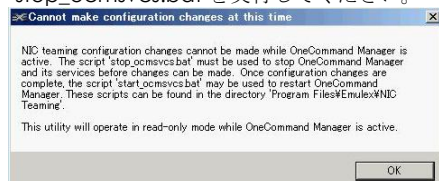
IPアドレスの設定は、初期値が「自動的に取得する」設定になります。固定値のIPアドレスを使用する場合は、IPアドレスの設定を変更する必要があります。また、IPアドレスの設定値を変更した後、接続相手と接続されていることを確認してください。

□ チーム削除方法について

- 1 OneCommand Managerをインストールしている場合、"C:\Program Files\Emulex\NIC Teaming"フォルダへ移動し、"stop_ocmsvcs.bat"をダブルクリックします。



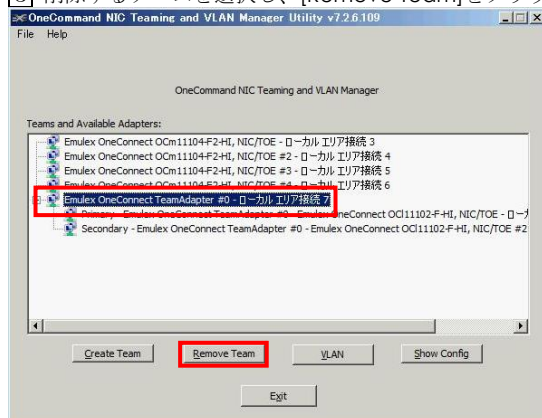
"stop_ocmsvcs.bat"を実行しないでNIC Teaming Kitを起動すると、以下のメッセージが表示され、チーム/VLANの作成削除が出来ません。必ず"stop_ocmsvcs.bat"を実行してください。



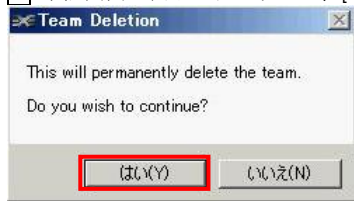
NIC Teaming Kit終了後、OneCommand Managerを起動する場合は、"start_ocmsvcs.bat"を実行してください。

- 2 [スタート]-[プログラム]-[Emulex]-[OneCommand NIC Teaming and VLAN Manager]をクリックします。

- 3 削除するチームを選択し、[Remove Team]をクリックします。



- 4 下記画面が表示されますので、[はい]をクリックします。



- 5 チームが削除されるので[OK]をクリックし、NIC Teaming Kitを終了します。



(Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008 64bit版のみ)
Hyper-Vをインストールしている場合、チーム削除後にチームを構成していたLANデバイスのプロパティを確認すると[仮想ネットワークスイッチ プロトコル]にチェックが入っています。
[仮想ネットワークスイッチ プロトコル]のチェックを外してください。

- 6 OS再起動を必ず行ってください。



他のアプリケーション等の設定において、使用するネットワークデバイスとして、チームを設定している場合、必ず、アプリケーションの設定からチームを外して、チームの削除を行ってください。



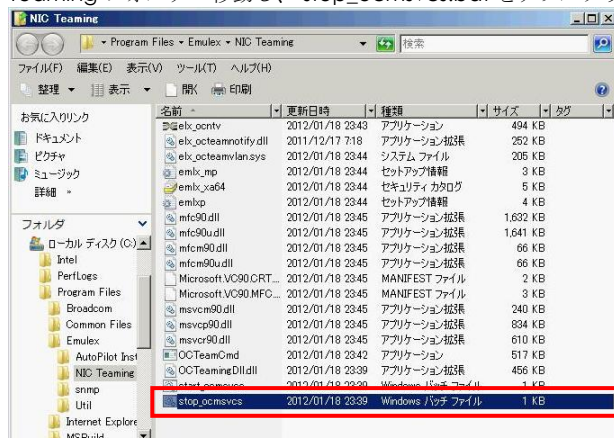
保守作業によるサーバブレードを交換する場合は、交換作業前にチーム設定の削除を行ってください。OSの起動時に新しいハードウェアが自動的に認識されます。再度、LAN拡張機能のチーム設定を行ってください。

□ タグVLANの設定について

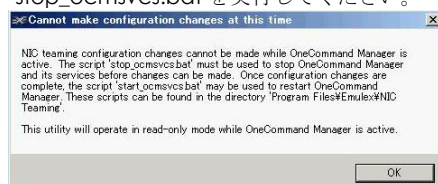


ポート分割されたLANデバイスにはタグVLANは設定出来ません。

- 1 OneCommand Managerをインストールしている場合、"C:\Program files\Emulex\NIC Teaming"フォルダへ移動し、"stop_ocmsvcs.bat"をダブルクリックします。

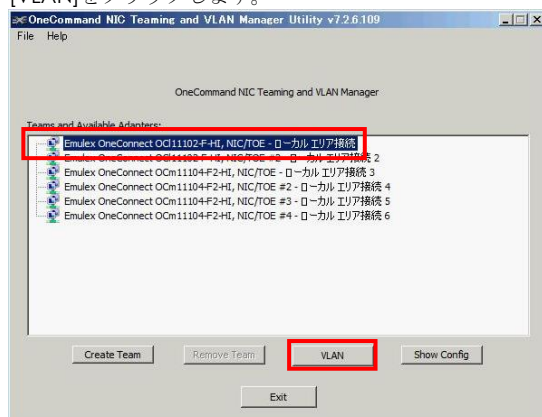


"stop_ocmsvcs.bat"を実行しないでNIC Teaming Kitを起動すると、以下のメッセージが表示され、チーム/VLANの作成削除が出来ません。必ず"stop_ocmsvcs.bat"を実行してください。

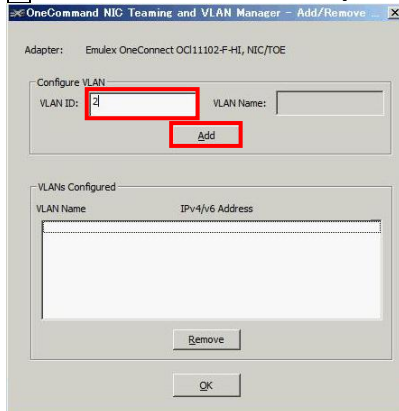


NIC Teaming Kit終了後、OneCommand Managerを起動する場合は、"start_ocmsvcs.bat"を実行してください。

- 2 [スタート]-[プログラム]-[Emulex]-[OneCommand NIC Teaming and VLAN Manager]をクリックします。NIC Teaming Kitが起動します。タグVLANを付与するLANデバイスを選択し、[VLAN]をクリックします。



③ 以下画面が表示されますので、[VLAN ID]にVLAN IDを設定し、[Add]をクリックします。

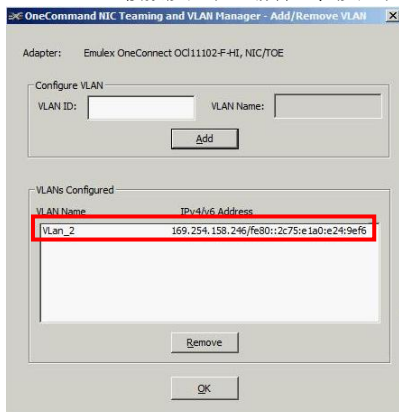


タグVLANで設定できるグループ数(ID数)はLANデバイス当たり最大4グループです。また、サポートプロトコルはTCP/IPのみです。

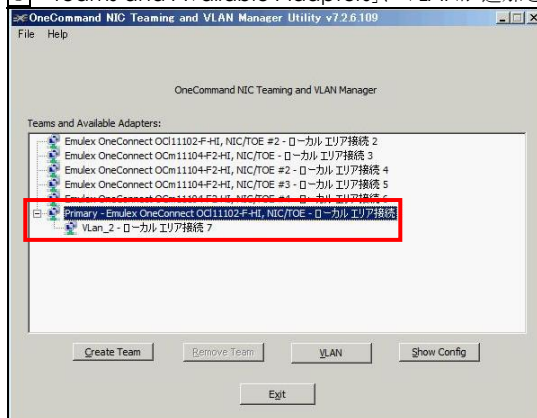


設定完了まで時間が掛かることがあります。

④ 「VLAN Configured」にタグVLANが追加されるので、[OK]をクリックします。タグVLANを複数設定する場合は、設定するタグVLANの個数分③を行います。



⑤ 「Teams and Available Adapters」にVLANが追加される事を確認します。



⑥ 他のLANデバイスにタグVLANを付与する場合、②～⑤を行います。

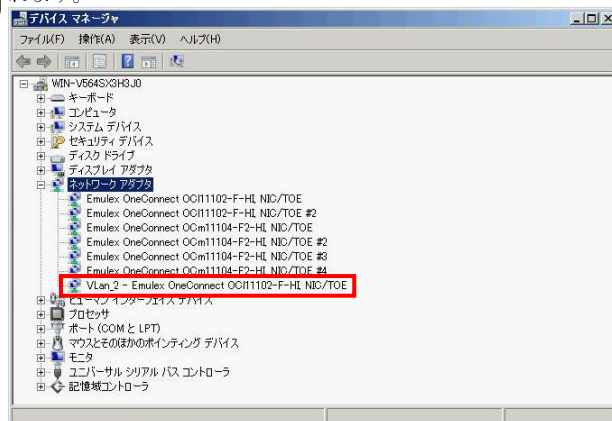
⑦ タグVLANの付与が完了したら、⑤の画面で[Exit]をクリックします。



タグVLANを設定する場合は、接続先のスイッチングHUBがIEEE802.1q VLANサポートの機器となります。



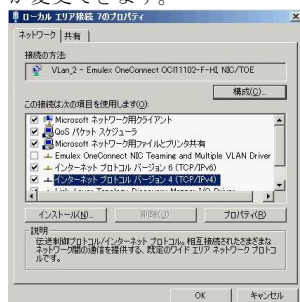
「デバイスマネージャー」上で、下図のように新規にタグVLANが追加されます。



8 OS再起動を必ず行ってください。



[ネットワーク接続]画面には、LANデバイス数に合せた[ローカルエリア接続]とタグVLAN設定したチーム数の[ローカルエリア接続]アイコンが表示されます。IPアドレスはタグVLAN設定により追加された[ローカルエリア接続]の設定値が有効になります。[ローカルエリア接続]のプロパティで、ネットワークプロトコル(TCP/IP)のプロパティを選択するとIPアドレスを変更できます。



9 IPアドレスの設定値を確認します。

IPアドレスの設定は、初期値が「自動的に取得する」設定になります。固定値のIPアドレスを使用する場合は、IPアドレスの設定を変更する必要があります。また、IPアドレスの設定値を変更した後、接続相手と接続されていることを確認してください。

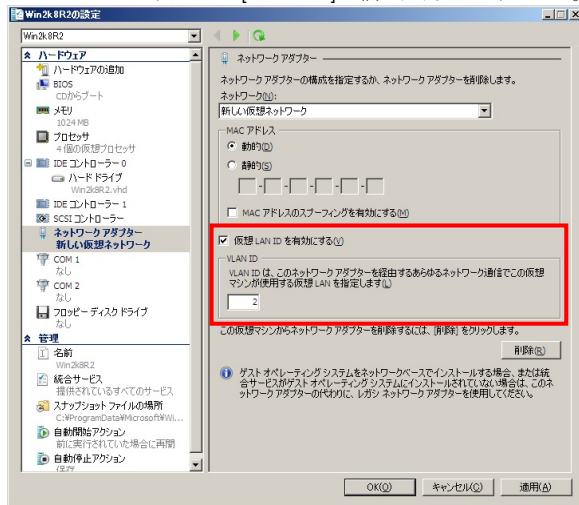


チームに対してVLANを設定した場合、チームのアイコンが白いアイコンになる場合があります。動作には影響はありませんので、そのままご使用ください。



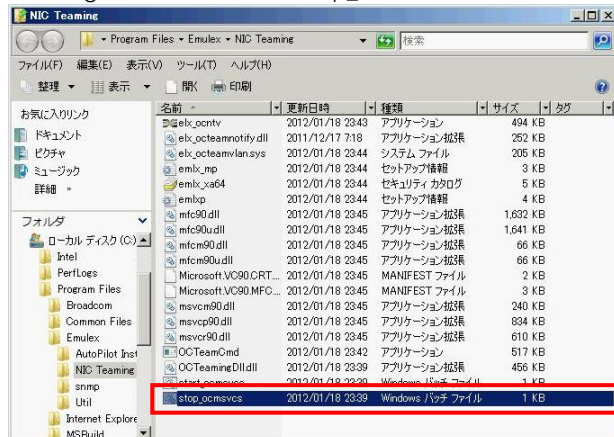
LANデバイスを割り当てたHyper-Vの仮想ネットワークでタグVLANを利用する場合は、必ずNIC Teaming Kitで作成したタグVLANとHyper-V 各仮想マシン 仮想LAN ID両方の設定を行ってください。

- ①仮想マシンをクリックし、右ペインの[設定]をクリックします。
- ②仮想マシンの設定画面が表示されるので、左ペインの[新しいハードウェアの追加]をクリックし、ネットワークアダプターを選択します。
- ③[仮想LAN IDを有効にする]にチェックを入れ、LANデバイスに設定したタグVLAN IDと同じIDを[VLAN ID]の欄に入力してください。

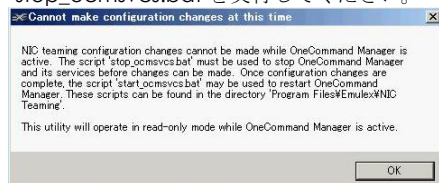


□ タグVLANの削除方法について

- ① OneCommand Managerをインストールしている場合、"C:\Program Files\Emulex\NIC Teaming"フォルダへ移動し、"stop_ocmsvcs.bat"をダブルクリックします。

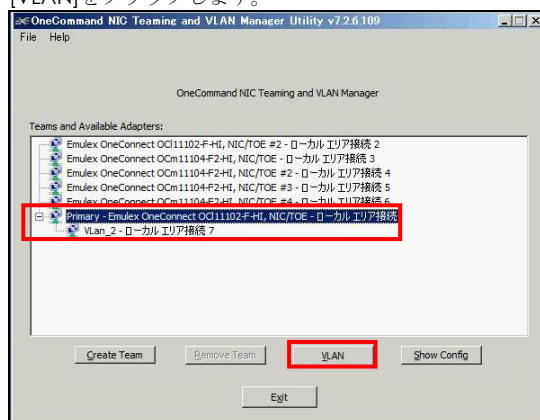


"stop_ocmsvcs.bat"を実行しないでNIC Teaming Kitを起動すると、以下のメッセージが表示され、チーム/VLANの作成削除が出来ません。必ず"stop_ocmsvcs.bat"を実行してください。

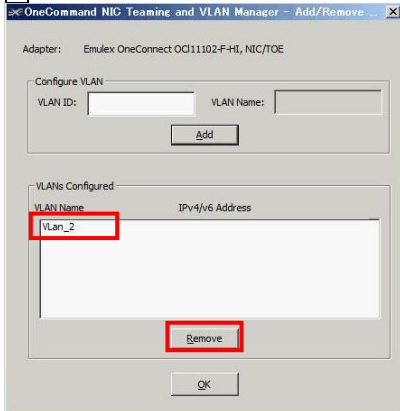


NIC Teaming Kit終了後、OneCommand Managerを起動する場合は、"start_ocmsvcs.bat"を実行してください。

- ② [スタート]-[プログラム]-[Emulex]-[OneCommand NIC Teaming and VLAN Manager]をクリックします。NIC Teaming Kitが起動します。タグVLANを削除するLANデバイスを選択し、[VLAN]をクリックします。



- 3 削除するVLANを選択し、[Remove]をクリックします。



- 4 「VLAN Configured」からVLANが削除されるので、[OK]をクリックします。



(Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008 64bit版のみ)
Hyper-Vをインストールしている場合、チーム削除後にチームを構成していたLANデバイスのプロパティを確認すると[仮想ネットワークスイッチ* プロトコル]にチェックが入っています。
[仮想ネットワークスイッチ* プロトコル]のチェックを外してください。

- 5 [OK]をクリックし、NIC Teaming Kitを終了します。

- 6 OS再起動を必ず行ってください。



他のアプリケーション等の設定において、使用するネットワークデバイスとして、タグVLANを設定している場合、必ず、アプリケーションの設定からタグVLANを外して、タグVLANの削除を行ってください。



保守作業によるサーバブレードを交換する場合は、交換作業前にチーム設定の削除を行ってください。OSの起動時に新しいハードウェアが自動的に認識されます。再度、LAN拡張機能のチーム設定を行ってください。

BladeSymphony

LAN拡張機能設定手順書(Emulex編)

初版 2012 年 5 月

無断転載を禁止します。

 株式会社 日立製作所
ITプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

<http://www.hitachi.co.jp>